

低未利用地の再生・管理と景観の維持管理に関する研究

研究の概要

近年、日本では世界的にも突出して急速に進む人口減少・少子高齢化の影響を受け、空間的にも空き家・空き地・駐車場といった低未利用地が増加傾向にあります。特に、まちや農山漁村ではその傾向が加速する中、景観や土地利用にも変化が表れやすいことが考えられます。その一方で、歴史や風土、人と自然とのかかわりによって培われたまちなみ・農山漁村集落が多数存在し、良好な景観が形成されています。そこで、本研究は、景観が維持されているまちや農山漁村を対象に、そこに居住する人々の生活環境と景観保全の観点から、土地利用管理と関連づけた低未利用地の現状と再生・管理について明らかにすることを目的とします。これにより、将来的に起こりうる景観や土地利用の変化を予測し、低未利用地における管理不足を未然に防止すべく、今後への提案を行いたいと考えています。

研究の特徴

研究テーマとして、社会経済構造の変化に伴って生じる低未利用地は、近年増加傾向が続いており、早急に検討することが必要であると考えます。また、近年の景観法や条例の施行により、景観に関する取組が進められ、良好な生活環境の形成に向け、わたしたちの日常生活と景観のあり方を通して、まちづくりや都市計画について考えてみることも必要になってきています。

研究手法として、具体的な事例によるケーススタディによる検討を行うことで、低未利用地の発生状況や今後の予測、提案を明らかにすること、地域住民の方々や行政にもフィードバックを行い、今後の土地利用計画やまちづくりを行う際の資料を提供することが可能です。



低層の住宅群と遠くに見える山並み

実用化が想定される分野

地域らしさを生かしたまちづくりや土地利用計画における景観の維持管理、低未利用地の利活用の検討

研究者からのメッセージ

海や山に囲まれ、自然に恵まれた和歌山・南大阪地域のまちや農山漁村には、それぞれの特徴があり、地域性が見られます。それらを生かしたまちづくりや景観の維持管理について、一緒に考える機会があれば幸いです。

研究分野 : 都市・農村計画, 景観・環境計画

研究者の所属部局・職位・氏名 : 和歌山大学システム工学部 環境デザイン学領域・教授・宮川智子

本件に関するお問い合わせ : liaison@ml.wakayama-u.ac.jp